

平成25年度
福岡市公共事業再評価等監視委員会

《 議 事 要 旨 》

都市再生整備計画「香椎副都心地区」

平成25年度 事後評価対象事業

都市再生整備計画事業「香椎副都心地区」

(委員)

- 指標3の「放置自転車率」について、放置自転車の原因は何か。なぜ起こるのか。

(住宅都市局)

- 対象区域では、仮設の無料自転車駐輪場から、有料化に転じた経緯がある。また、利用者は、「なるべく近くに停めたい」という思いがあると考えられる。これらのことが、放置自転車につながっているのではないか。

(委員)

- ここでいう放置自転車は、不法に駐輪したものをいうのか。それとも、長期間放置されているものをいうのか。

(住宅都市局)

- 不法駐輪である。

(委員)

- 香椎川の護岸整備とは、どのようなものか。

(住宅都市局)

- 老朽化に伴う整備を行うとともに、親水性を持たせた。今後も引き続き整備を行っていく予定である。

(委員)

- 親水性で利用状況は改善されたのか。

(住宅都市局)

- 香椎川は、商店街の中央に位置し、たびたび氾濫している経緯がある。このため、安全性の面での改修と併せ、段階的に親水護岸整備を行っている。改修の進捗とあわせながら、商店街や地域が、お祭り等のイベントを実施しており、一定の効果を得ている。

(委員)

- 社会実験によりイベントを実施しているが、継続性はあるのか。また、資金的な面などはどうか。

(住宅都市局)

- イベントの開催は、地域団体である「ちはやふる21」により自主的に実施されている。市からの補助金はないが、地域主体の活動が続くよう、助言や事業共催などの支援を行っていく。また、イベントの開催場所である千早並木広場は、地域による自主財源で運営できる仕組みを構築しており、継続的な運営を見込んでいる。

(委員)

- 香椎駅前は、今後良くなるのか。

(住宅都市局)

- 平成30年度に土地区画整理事業が完了する予定である。現在、空地がみられるが、地元も空地を積極的に活用したイベント等を実施している。また、まちづくり協議会を立ち上げ、行政が整備する公園や道路と民地の一体的な景観づくり等に取り組んでおり、まちの賑わいをなくさないよう事業を進めている。

(委員)

- 指標1の「駅の乗降客数」について、従前値と目標値がそれほどかわらない印象を受ける。居住人口が増えれば、当然駅の乗降客数は増える。目標値は低く設定しているのではないか。どのような考え方なのか。

(委員)

- 他指標についても、従前値と目標値の設定について説明してほしい。

(住宅都市局)

- 指標1の「駅の乗降客数」であるが、従前値は、平成19年度の地区内鉄道6駅の乗降客数の合計。目標値は、平成14年度～19年度の、計画前5年間のデータをもとに直線近似による推計で求めた。

指標2の「居住人口」であるが、従前値は、平成20年9月の地区内の人口合計。目標値は、平成15年度～20年9月の、計画前5年間のデータをもとに直線近似による推計で求めた。

指標3の「放置自転車率」については、平成19年度調査による放置自転車率が8%であり、土地区画整理事業の進捗により利用台数の増加が見込まれる中で、放置自転車の増加を抑制し現状を維持する目標を設定した。

指標4の「公民館利用者数」であるが、従前値は、平成19年度の計画対象公民館の年間の利用者数合計。目標値は、これまでに改築を行った他地区の公民館の改築前後の利用者数の推移を参考に算出した。

(委員)

- 次期計画の目標値は、現計画の5年間の推移をみるのか。この5年間は居住人口がかなり増えていて、直線近似による推計だと非常に高い目標値となり、達成できないのではないか。

(住宅都市局)

- 居住人口についていうと、土地区画整理事業により大規模な更地が出来たために増えたものと考えられる。次期計画については、現状を踏まえ検証する。

(委員)

- 直線近似とは、現状の傾向をそのまま伸ばすもので、事業を実施していないときの状況を示し、目標値ではなく、基準値となっていないか。よって、目標値以上になるのは、あたりまえではないのか。

(住宅都市局)

- 現計画は2期目であり、1期目の施策を実施した5年間の効果を反映し、それを継続しようというものである。

(委員)

- 1期目の効果を反映しているということだが、現計画での新たな手を加える前のトレンドと考えられ、施策の効果を加味していると言えるのか。

(住宅都市局)

- 1期計画で一定の整備が進んだ中で、現計画の目標値を設定している。1期計画で現れた効果が更に伸びるという事は、高い効果を発現しており、目標設定としては高い水準と考えている。

(委員)

- 土地区画整理事業により、住宅等が建築可能な宅地が増えたと思うが、居住人口の目標設定に際して、その増要素は加味されたのか。実際の床増加分と人口の伸びを比較してどうか。

(住宅都市局)

- 土地区画整理事業による宅地が増えることを加味した居住人口の目標設定は行っていない。香椎副都心土地区画整理事業では、JR操車場の跡地を整備しており、計画人口6,400人に対し、現時点では、それ以上に増加している。

(委員)

- 公民館の利用者が増えているが、居住人口が増えれば利用者が増加するのは当たり前ではないか。利用率など更に踏み込んだ分析は行ったのか。

(住宅都市局)

- 公民館の利用率については把握していないが、地域の人口の伸びと比較すると、公民館の利用者数が大きく伸びており、公民館の改築が利用促進につながったと考えられる。

(委員)

- 公民館の利用について、利用可能なコマが全部埋まっているかなど、稼働状況を把握しているか。また、同じ方々が定期的に利用するケースが多いと思うが、新規に利用したい方のアクセス向上について検証できているか。

(住宅都市局)

- 利用者数の集計はあるが、稼働率は把握していない。公民館の利用については、サークルの更新を毎年行うこととしており、サークル懇話会などの場を設け、新しい利用者が参加できるよう促進している。また、香椎公民館の利用者にアンケート調査を実施しており、建替え前と比べた使いやすさなどを尋ねたところ、改築前は「公民館を知らない」という回答が15.9%あり、改築によって新たな利用者のアクセスが向上したと考えられる。

(委員)

- 公民館の利用者数について、500人/日程度の利用となっているが、年度によって開館日数による増減はあるのか。

(住宅都市局)

- 福岡市の公民館は、お盆と年末年始以外は開館しているが、年度間における開館日数はほぼ一律であり、増減は生じていないと考えられる。

(委員)

- 公民館の管理は指定管理者制度なのか。

(住宅都市局)

- 市が直営でやっている。

【結論】

<事後評価について>

事後評価は、適切になされたと判断する。

<今後のまちづくり方策について>

まちづくり方策に基づき、適切に推進すること。